

国語科学習指導案

日時 平成 24 年 10 月 4 日(木) 5 校時
学級 1 年 B 組 (男子 18 名 女子 18 名 計 36 名)
場所 1 年 B 組教室
授業者 門屋 なつみ

1. 単元名 スピーチで体験学習を報告しよう ~自分の考えが明確に伝わるような構成を工夫して~

2. 単元について

本単元は、国語科第一学年の目標「(1)目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえながら話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。」ために、「A話す事・聞くこと」の指導事項「イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。」に力を入れ指導するものである。

本年度、一学年では、総合的な学習の時間において、「郷土いわての未来のために、今、自分たちができること」というテーマのもと、東日本大震災で大きな被害を受けた陸前高田市でのボランティアを体験し、今後自分達の果たすべき役割について考えていくという学習を進めている。最終的には、北桜祭(文化祭)の場で、体験の報告を行うことを計画している。そこで、国語科では、総合的な学習との相互関連を図り、スピーチ学習の単元を構想することで、国語科の目標である「伝えあう力を高める」ことがより一層効果的にできるのではないかと考えた。「被災地と北上中学校の生徒、教員、保護者、地域の方々を結びつける」そのために、自分が体験し、考えたことをスピーチするのだという相手意識・目的意識を持たせながら単元を進める。それが、総合的な学習のテーマである「今、自分たちができること」の一つにもなるのだと考える。思いを明確に伝えるために、思考し、判断し、表現するといった授業を展開させていきたい。

3. 生徒について

生徒はこれまで、小学校において、朝の会で1分間スピーチを日常的に行ったり、平和や環境といったメッセージ性の強いスピーチを行ったりということをほぼ全員が経験してきている。そのため、一学期教材「友達をみんなに紹介しよう」というインタビューをしてその後スピーチするという学習では、抵抗なく意欲的に取り組もうとする姿が見られた。また、スピーチの音量、速度、間の取り方等の知識もあることがわかった。しかし、実際のスピーチ場面では、原稿の書いてあるノートを音読することに終始してしまう生徒が多く、知識はあるものの、活用するまでに至っていないことが感じられた。

事前アンケート調査からは、次のことが明らかになった。「話すこと」の実態のうち、「友達と話すこと」については肯定的な回答をした生徒が100%であった。しかし、「学級の前で話す」となると、肯定的な回答は51%に下がり、「全校やクラブなどの公の場で話すこと」については、28%という結果であった。更に、「全校やクラブなどの公の場で話すこと」に肯定的な回答の理由については、「話すことに慣れているから」「話したあとに充実感を感じるから」とあげている者が多かった。逆に、否定的な回答の理由については「どのように話せばいいかわからない」、「話した後にうまくいかなかったように感じる」ということをあげる生徒が多かった。このことから、スピーチの場が大きく、公になるほど、不安や緊張が高くなり、どう話せばいいかわからなくなることが考察された。また、本校は生徒数数が多く、全員にスピーチの機会を与える機会をつくるのは容易ではないのだが、慣れさせるために、スピーチの練習の回数を多く持たせることが必要だと思われる。何を何故伝えるのかという目的意識を強く持たせ、どのように原稿を作るのか、話すのか、聞くのかという指導をきめ細かく行い、スピーチ練習を繰り返し行うことで、自己評価が高まるような指導過程を組みたいと考える。

4 単元の目標と評価規準

観点	目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	伝えあう意義や目的を知り、スピーチ学習に意欲を持つ。	伝えあう意義や目的を知り、進んでスピーチをしようとしている。
話すこと・ 聞くこと	話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などの知識を生かし、相手の反応を踏まえながら話すことができる。	自分の考えや気持ちが伝えられるように、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などの知識を生かし、相手の反応を踏まえながら話しをしている。
言語についての 知識・理解・技能	音声の働きや仕組みについて関心を持ち、理解を深めることができる。	友達や自分の声の出し方に関心を持ち、話したり聞いたりしている。

5 単元指導計画

時	学習活動	評価規準
総合等	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が、体験したボランティア活動についてモデルスピーチを行うことで、スピーチへの興味を高める。 ○自分が知りたいこと、班でのテーマを設定する ○陸前高田市の震災当時の様子、津波による被害を受けた方々からの話、ボランティアについての話等、事前学習を行う。 <p>(朝の会でのニュース発表、宿題の意見文づくりなどで関心を高める。)</p>	
1	<ol style="list-style-type: none"> 1 スピーチ学習の目的・計画の流れを知る。 2 「自分の考えが明確に伝わるスピーチ」をするための方法を知る。 3 スピーチのための着目点をつくる。 	<p>伝えあう意義や目的を知り、進んでスピーチをしようとしている。</p> <p style="text-align: right;">【関・意・態】</p>
総合等	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア体験 ○生活班でのふり返り ○心に残った場面の写真選び ○個人新聞づくり 	
2 3	<ol style="list-style-type: none"> 1 スピーチ原稿の作り方について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・書き言葉と話し言葉での原稿を比較し、スピーチとしてはどちらの原稿が良いか、根拠を明確にして考える。 ・スピーチ原稿用紙の形式や使い方について知る。 2 事実と意見との関係に注意して、スピーチ原稿を作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを明確にしなが、300字程度の文章を書く。 ・スピーチ用の原稿に書き直す。 	
4	<ol style="list-style-type: none"> 1 スピーチの練習をする。 2 ペアでアドバイスをしあい、原稿に書き込みを入れる。 	<p>自分の考えや気持ちが伝えられるように、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などの知識を生かし、練習している。</p> <p style="text-align: right;">【話】</p> <p>友達や自分の声の出し方に関心を持ち、話したり聞いたりしている。</p> <p style="text-align: right;">【言】</p>

時	学習活動	評価規準
5	1 グループ内でスピーチしあう。 2 グループ内で優秀スピーチ者を選ぶ話し合いをする。	自分の考えや気持ちが伝えられるように、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などの知識を生かし、相手の反応を踏まえながら話をしている。 【話】
総合	○優秀スピーチ者(9名)の発表を聞く。 ○国語の学習を生かしながら、学級の代表スピーチ者を選ぶ。	
6 本時	1 学級内でのスピーチと、全校の前でのスピーチの違いを考え、代表のスピーチ者にアドバイスカードを書く。 2 スピーチの学習から分かったことをまとめ、自己評価をする。	友達や自分の声の出し方に関心を持ち、話したり聞いたりしている。 【言】
総合	○学年発表会をひらく。 ○北桜祭(文化祭)で発表する。	

6 本時の指導

(1)本時の目標

自分の考え方や気持ちが伝えられるように、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などの知識を生かし、相手の反応を踏まえながら話することができる。 【話すこと イ】

(2)本時の授業構想

〈教師の説明〉では、まず、本時の学習プロセスを確認する。次に、このスピーチで何を伝えたいのかを確認させることで、学習の意欲を高める。また、しっかり伝えるためには、聞き手の反応を見ながら話すことやしっかりした姿勢で話すことが大切だということを説明する。

〈理解確認〉では、「教師の説明」の段階で教えた「聞き手の反応を見ながら話すこと(アイコンタクト)」を意識してスピーチができたかを確認する。方法は、参観の先生方に一斉に語りかけ、振り返ることと、となりの者に見てもらい、アドバイスをもらうことで行う。

〈理解深化〉では、グループ内で、順番にスピーチの発表をさせる。その後、まず、スピーチで良かった点を具体的にあげさせ、プラスの相互評価を行わせる。つぎに、代表を選ぶための討議をさせ、思考することによって、自分の考えが明確に伝わるようなスピーチとはどのようなものかという理解の深化をはかる。

〈自己評価〉では、観点を明示し、ふり返りとしてワークシートに書かせる。

(3)評価の観点と評価規準

観点	A十分満足できる	Bおおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
話す能力	話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などの知識を生かし、相手の反応を踏まえながら話している。	話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などの知識を生かし、聞き手の顔を見ながら話している。	前時の授業の見取りから、努力を要する生徒を予想し、何を伝えたいのか、伝えるためにどんなことを注意するのか、個人指導をしてからスピーチを開始させる。

(4)本時の展開

		学習活動	評価規準
教 え る	教 師 の 説 明 十 分	<p>予習：スピーチの練習をしてくる。</p> <p>①本時の学習プロセスを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板の横にカードを貼りながら説明する。 ・何を伝えたいかを再確認させ、伝えるために相手の反応を見ながら話すということを説明する。 ・聞きかたについて説明する。 	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 聞いてもらうための工夫をしながらスピーチしよう。 </div>	
考 え さ せ る	理 解 確 認 五 分	<p>②最終リハーサルをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参観者の方々に向かって、男子、女子の順に、一斉に練習する。 ・「聞き手の反応を見ながら話すこと(アイコンタクト)」を意識して、工夫したスピーチができたか確認する。 ・隣の人からアドバイスをもらう。 	<p>【話すこと・聞くことの技能】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自分の考え方や気持が伝えられるように、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などの知識を生かし、相手の反応を踏まえながら話することができる。 </div> <p>A 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などの知識を生かし、相手の反応を踏まえながら話をしている。</p> <p>B 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などの知識を生かし、聞き手の顔を見ながら話している。</p>
	理 解 深 化 三 十 分	<p>③グループ内で、順番にスピーチをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞く者は、観点に基づき、ワークシートに評価を書き入れる。 <p>④グループで話し合いを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に良かった点を話す。 ・根拠を明確にして、優秀スピーチ者を決定する。 <p>⑤根拠をあげながら、優秀スピーチ者を全体に発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードを利用する。 ・グループ内の発表係が前に立ち、発表する。 <p>○時間があれば、選出された生徒1,2人に全体の場で発表してもらう。</p>	
	自 己 評 価 五 分	<p>⑥本時の学習を振り返って感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチをして思ったこと。 ・友達のスピーチを聞いて思ったこと。 ・話し合いをした後に考えたこと。 ・今日の学習でわかったこと。 ・先生への質問 	